

「地域脱炭素・京都コンソーシアム」第2回検討会議 結果概要

1 日 時

令和5年3月2日（木）14時30分～16時

2 場 所

オンライン

3 出席者等

名簿のとおり

4 議 事

- (1) 「京都ゼロカーボン・フレームワーク」の利用拡大に向けて
- (2) 環境省「地域ぐるみの中小企業支援体制構築事業」への応募について

5 概 要

- 本フレームワークの活用は、サステナブルファイナンスの組成に初めて取り組む金融機関にとって、社内での体制整備と制度作りを行うきっかけとなっている。
- 本フレームワークの営業状況について、各金融機関でバラツキがあるが、特定事業者や大手取引先からの紹介を受けた企業等とコンタクトを取っている（3/2時点で2件組成済）
- 各金融機関からは、営業店等への落とし込みを図る際に、本フレームワークの活用に係る事業者向け手引きやセミナー、金融機関の営業用資料等を求める言及があった。
- 産業界からは、省エネ診断を受診した企業を本フレームワーク活用に繋げる連携や中小企業の資金需要・計画に合わせて各金融機関が提案する重要性等について言及があった。
- 日本銀行から「気候変動対応オペ」を紹介。金融機関のサステナブルファイナンス（本フレームワーク含む）をバックファイナンスで支援。貸付対象や期間等、金融機関が活用しやすいよう柔軟な制度設計とされた。
- 環境省から「地域ぐるみの中小企業支援体制構築事業」を紹介。中小企業向けの脱炭素化支援においては各機関が連携することが重要。本事業は中小企業の脱炭素化支援に向けた体制構築を支援するものであり、地域のステークホルダー等に柔軟に活用してもらいたい。
- 本コンソーシアムでの同事業への応募内容案について、各構成団体から項目については概ね合意が得られた。期待する支援メニューとして、行員のスキルアップを推す意見が多かった一方、スキルアップの目標レベルについて具体化すべきという声もあった。
- 京都府（事務局）で各構成団体から頂戴した意見等を踏まえ、申請内容の肉付けをしていく。

以 上